

目指す学校像

高き志【こころざし】

地域とともにある

勢いのある学校

No. 26 (R3. 11. 24発行) 文責 校長 福田雅也

## 多 数 決 と は ？

総理大臣が変わったと思ったら、すぐに衆議院が解散し、10月31日に衆議院議員選挙の投開票が行われました。結果はご存知の通りで、全体としては選挙前と大きく変わりはない状況と言ってよさそうです。安定多数を確保した与党派が、今後も今までの政治の方向性を踏襲した政権運営を行っていくことになるのでしょうか。政治は合議制ですから、人数が多い意見が通っていくのはご存知のとおりです。多数決の原理です。

この「多数決」。選挙で言えば、1票でも票が多いほうが当選となるわけです。場合によっては、小数点の票数がカウントされるくらい「多数決の原理」が厳密に適用されているのです。【このことを「あんぶん」（按分）というそうです】今回の選挙もこの「多数決の原理」に基づいてすべての当選者が決定されたことは言うまでもありません。

しかし、選挙とは違って、物事を集団決定していく場面での「多数決の原理」で、本当に大切な部分は「多い方に決定する」ことではないと思います。本当に大切なのは、決定の過程で、少数派や個人の意見を尊重していく部分だと思っています。そこが尊重されていないのであれば、「民主主義の中の多数決」とは言えないと思います。

学校では、これらの民主主義の原則を社会科関係とは別に、「特別活動」の中で体験と共に学んでいきます。児童会や生徒会の役員選挙等はまさにそれにあたります。その他にも、学級の中で様々なことを決定する「話し合い活動」、一般的に「学級会」と言われるものもそれにあたります。「学級会」では、学級や学校における生活上の諸問題の解決を図っていきます。文部科学省の解説書には「…よりよい合意形成の図り方について理解すること、生活上の諸問題を自分たちの課題として捉え、多様な意見を認め合い、よさを生かし合いながら考え、伝え合い、合意形成することができるようにすること…」と書いてあります。

この「学級会」の中では、学級として集団で合意形成する場面が多くなります。その際、とても大切になるのが「折り合いをつける」ことであるといわれています。多数派は、少数派の意見に耳を傾け、少数派は、多数派に自分達の考え方を根拠を持って説明し、互いが歩み寄れる点を見つけていきます。この「折り合いをつける」部分こそが、少数派や個人の意見を尊重する部分に当てはまると思います。単に人数で多数決をするのではなく、前述のような過程を経て、少数派や個人の意見の中で取り入れることができる部分は取り入れ、結果的には多数決であったとしても、できるだけ多くの児童が納得した形で合意形成をしていく。このことがとても大切だと思っています。

高木小でも、学年の発達段階に応じてこのような話し合いが行われ、学校や学級の決まりごと等が決定されています。

新しい衆議院議員により、今後も国政の方向性を決める様々な内容が国会等で議論され、合意形成されていくことになると思います。その議論や合意形成が子どもたちの手本になるようなものであることを心から願っています。